

第 3 8 9 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和 7 年 8 月 2 9 日

日 本 学 術 会 議

Ⅲ 公 開 審 議 事 項

件名・議案		提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等
1. 委員会関係						
提案 1	(幹事会附置委員会) 日本学術会議法人化準備委員会 (1)運営要綱の決定 (2)分科会の設置 (新規 3 件)	会長	4	法人化後の日本学術会議の組織体制、ガバナンス等について審議するため、日本学術会議会則第25条第1項の幹事会附置委員会として委員会の運営要綱を決定するとともに、分科会を設置するため。	会長	(1)会則第25条 1 項、第 2 項 (2)内規第12条 2 項
提案 2	(分野別委員会) (1)委員会委員の決定 (追加 1 件)	第一部部長	10	分野別委員会における委員会委員を決定するため。	第一部部長	内規12条第3項
2. 協力学術研究団体関係						
提案 3	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	会長	11	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①一般社団法人 日本循環器理学療法学会 ②アジア法学会 ③一般社団法人 日本理学療法学会 ④日本野球学会連合 ⑤日本倫理道德教育学会 ⑥日本シティズンシップ教育学会 ⑦一般社団法人 日本がん・リンパ浮腫理学療法学会 ⑧一般社団法人 全国大学理学療法学教育学会 ⑨九州英語教育学会	三枝副会長	会則36条
3. 国際関係						
提案 4	第24回アジア学術会議 (1)代表者の派遣の決定	会長	13	第24回アジア学術会議への代表者の派遣を決定するため。	日比谷副会長	令和7年度アジア学術会議等代表派遣の基本方針
提案 5	令和 7 年度代表派遣について、実施計画を変更等すること	会長	14	令和 7 年度代表派遣について、実施計画を変更等するため。	日比谷副会長	国際交流事業の実施に関する内規第22条
4. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等 【令和 7 年度第 3 四半期】変更分						
提案 6	学術フォーラム 「環境化学物質の健康影響：その理解と健康をまもる生活環境の維持に向けて」の開催について	健康・生活科学委員会委員長、環境学委員会委員長	15	主催：日本学術会議 日時：令和 7 年12月18日 (木) 13:30～17:30 場所：日本学術会議講堂 (ハイブリッド開催) ※第二部、第三部承認 ※本学術フォーラムは令和 7 年 6 月の第 386回幹事会にて承認を受けたが、都合により、開催日を変更するもの。	—	内規別表第 2

5. その他のシンポジウム等

提案7	公開シンポジウム 「教育改革と可視化- 教育改革と可視化-生 成AIの光と闇」の開 催について	総合工学委員会 委員長	17	主催：日本学術会議総合工学委員会 科 学的知見の創出に資する可視化分科会 日時：令和7年10月8日（水）17:00～ 18:30 場所：大阪成蹊大学駅前キャンパスこみ ちホール（大阪市東淀川区）（ハイブ リッド開催） ※第三部承認	－	内規別表第 1
提案8	公開シンポジウム 「プラネタリーヘル スの視点で捉える気 候変動と災害：コ ミュニティの役割と 挑戦」の開催につい て	健康・生活科学 委員会委員長、 環学委員会委員 長、フュー チャー・アース の推進と連携に 関する委員会委 員長、防災減災 学術連携委員会 委員長	19	主催：日本学術会議環境学委員会・健 康・生活科学委員会合同環境リスク分科 会、フューチャー・アースの推進と連携 に関する委員会、防災減災学術連携委員 会、日本国際保健医療学会、帝京大学 日時：令和7年11月1日（土）13：00～ 15：00 場所：帝京大学 板橋キャンパス（東京 都板橋区） ※第三部承認	－	内規別表第 1
提案9	公開シンポジウム 「トランプ関税と国 際経済秩序」の開催 について	政治学委員会委 員長、経済学委 員会委員長	22	主催：日本学術会議政治学委員会、経済 学委員会 日時：令和7年11月16日（日）13：00～ 16：00 場所：上智大学四谷キャンパスB-210 ※第一部承認	－	内規別表第 1
提案10	公開シンポジウム 「「土の教育」始め ませんか？」の開催 について	農学委員会委員 長	24	主催：日本学術会議農学委員会土壌科学 分科会・Soil Health小委員会 日時：令和7年 11月29 日（土）10：00 ～12：00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	－	内規別表第 1
提案11	日本学術会議中国・ 四国地区会議学術講 演会「未来先進地域 から限界地総合学を 考える」（仮題）の 開催について	科学者委員会委 員長	26	主催：日本学術会議中国・四国地区会議 日時：令和7年11月29日（土）13：30～ 17：10 場所：鳥取大学鳥取キャンパス工学部講 堂（鳥取県鳥取市）（ハイブリッド開催 （予定）） ※科学者委員会承認	－	内規別表第 2
提案12	公開シンポジウム 「地球再興を見据え た新材料デザイン」 の開催について	材料工学委員会 委員長	28	主催：日本学術会議材料工学委員会新材 料デザイン検討分科会 日時：令和7年12月23日（火）13：00 ～ 17：00 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド 開催） ※第三部承認	－	内規別表第 1

6. 後援

提案13	国際会議の後援をす ること	会長	30	以下について、後援の申請があり、国際 委員会において審議を行ったところ、適 当である旨の回答があったので、後援す ることとしたい。 ・「科学技術と人類の未来に関する国際 フォーラム」第22回年次総会	日比谷 副会長	国際学術交 流事業に関 する内規第 39条
提案14	国内会議の後援をす ること	会長	31	以下について、後援の申請があり、関係 する部に審議付託したところ、適当であ る旨の回答があったので、後援すること としたい。 ・第49回人間－生活環境系シンポジウム ・第84回日本公衆衛生学会総会シンポジ ウム「今後のNCDs対策を考える」 ・第23回男女共同参画学協会連絡会シン ポジウム	会長	後援名義使 用承認基準 3(2)ウ

7. その他

件名		資料(頁)
参考	今後の予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は9月26日(金)14:30～開催予定。	32

日本学術会議法人化準備委員会運営要綱

（ 令 和 7 年 月 日 ）
日本学術会議第 回幹事会決定

（設置）

第 1 日本学術会法人化準備委員会（以下「委員会」という。）は、日本学術会議会則第 25 条第 1 項に基づく委員会として幹事会に附置する。

（任務）

第 2 委員会は、法人化後の日本学術会議の組織体制やガバナンス等、法人化に伴い検討が必要な事項について審議する。

（組織）

第 3 委員会は、会長、副会長、各部の 2 名の会員及び会員若干名をもって組織する。

（設置期限）

第 4 委員会は、令和 8 年 9 月 30 日まで置かれるものとする。

（分科会）

第 5 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。分科会の設置期限は当該期末までとし、委員長は適時に分科会の設置について幹事会に提案する。

分科会	調査審議事項	構成	備考
会員選任制度検討分科会	1. 法人発足後の会員選任制度の検討に関すること 2. 会長選考制度の検討に関すること	会長の指名する副会長及び各部の 2 名の会員	設置期間：令和 7 年 8 月 29 日～令和 8 年 9 月 30 日
日本学術会議憲章検討分科会	日本学術会議憲章の見直しに関すること	会長の指名する副会長及び各部の 2 名の会員	設置期間：令和 7 年 8 月 29 日～令和 8 年 9 月 30 日
自己資金検討ワーキンググループ	自己資金獲得の方策及び運用上のルールを検討に関すること	会長の指名する副会長及び各部の 1 名の会員	設置期間：令和 7 年 8 月 29 日～令和 8 年 9 月 30 日

（庶務）

第 6 委員会の庶務は、事務局各課・参事官の協力を得て、事務局企画課において処理する。

（雑則）

第 7 この要綱に定めるもののほか、議事の手続その他委員会の運営に関し必要な事項は、

委員会が定める。

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

日本学術会議法人化準備委員会分科会の設置について

分科会等名：会員選任制度検討分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	日本学術会議法人化準備委員会
2	委員の構成	会長の指名する副会長及び各部の2名の会員
3	設置目的	法人発足後の会員の選任及び解任は、日本学術会議法（令和7年法律第70号）に基づき、新法人において行われるところ、会員の解任や補欠の会員の選任などは、法人発足後、時期を問わず対応が必要となる可能性がある。また、会長の選考も法人発足後直ちに行う必要がある。 本分科会は、法人発足後の会員の選任及び解任並びに会長候補者の選考に係る具体の手続き等について審議することを目的として設置する。
4	審議事項	1. 法人発足後の会員選任制度の検討に関すること 2. 会長選考制度の検討に関すること
5	設置期間	令和7年8月29日～令和8年9月30日
6	備考	

日本学術会議法人化準備委員会分科会の設置について

分科会等名：会員選任制度検討分科会

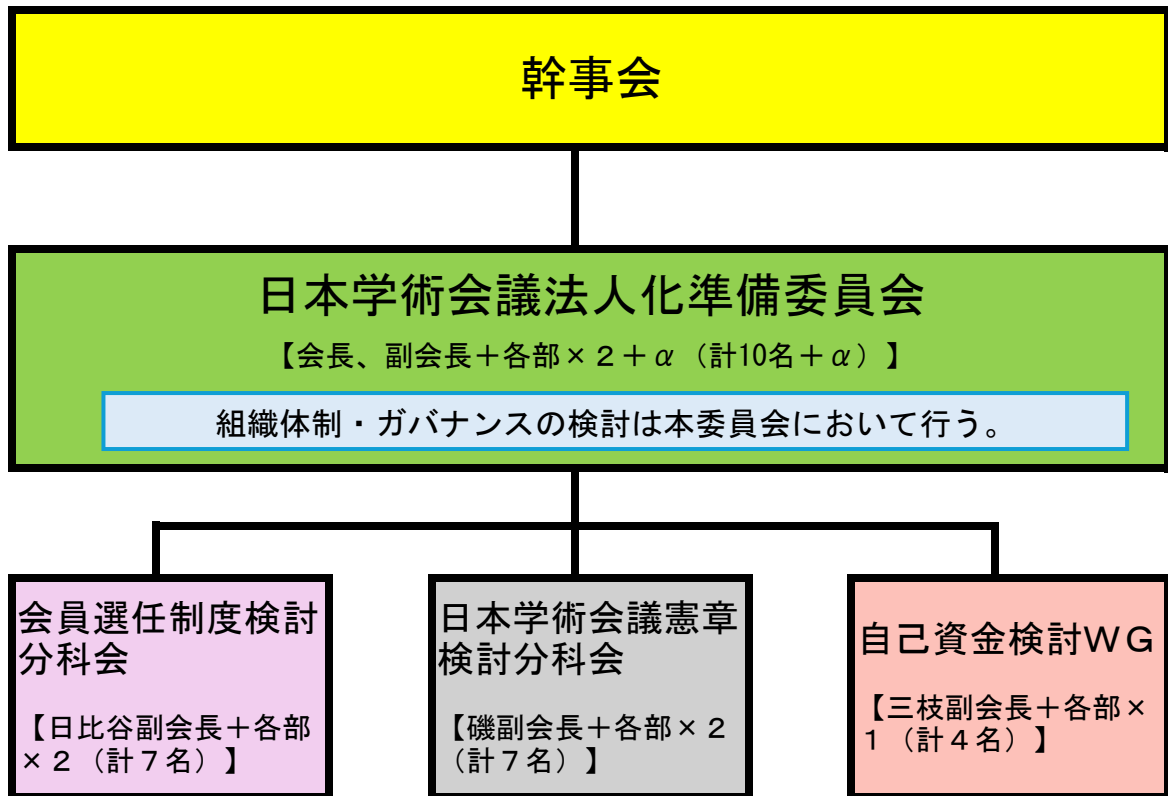
1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	日本学術会議憲章検討分科会
2	委員の構成	会長の指名する副会長及び各部の2名の会員
3	設置目的	「日本学術会議憲章」は、日本の科学者コミュニティの代表機関としての法制上の位置付けを背景に、日本学術会議が社会の負託に積極的に応えることを対外的に誓約するものとして、平成20年4月8日第152回総会において決定されたものである。 本分科会は、日本学術会議の法人化を踏まえ、現行の日本学術会議憲章の見直しを行うことを目的として設置する。
4	審議事項	日本学術会議憲章の見直しに関すること
5	設置期間	令和7年8月29日～令和8年9月30日
6	備考	

日本学術会議法人化準備委員会分科会の設置について

分科会等名：自己資金検討ワーキンググループ

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	日本学術会議憲章検討分科会
2	委員の構成	会長の指名する副会長及び各部の2名の会員
3	設置目的	日本学術会議は、法人化により、国からの財政支援に加え、新たに自己資金の獲得が可能となる。 本分科会は、自己資金獲得の方策のほか、独立性、透明性等を担保するための運用上のルールについて検討することを目的として設置する。
4	審議事項	自己資金獲得の方策及び運用上のルールの検討に関すること
5	設置期間	令和7年8月29日～令和8年9月30日
6	備考	

日本学術会議における法人化検討体制



※分科会、WGの構成員（副会長を除く。）は準備委員会の委員を兼ねることを要しない。

【分野別委員会】

○委員の決定（追加 1 件）
（経済学委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
石川 城太	学習院大学国際社会科学部教授	連携会員

【常置（細則第 10 条第 2 項）、追加決定後の委員数：11 名】

日本学術会議協力学術研究団体の新規指定について

	団体名	概 要
1	一般社団法人 日本循環器理学療法学会 (https://www.jscvpt.com/)	本団体は、循環器理学療法に関する知識の普及、学術文化の向上に関する事業を行い、医療及び社会福祉の充実に寄与することを目的とするものである。
2	アジア法学会 (https://asianlaw.info)	本団体は、アジア及びそれ以外の発展途上地域の法及び関連領域の研究の発展を目的とするものである。
3	一般社団法人 日本理学療法学会連合 (https://www.jspt.or.jp/)	本団体は、理学療法に関する知識の普及、学術文化の向上に関する事業を行い、医療及び社会福祉の充実に寄与することを目的とするものである。
4	日本野球学会 (https://www.baseballscience.net/)	本団体は、(1) 野球競技に関する科学研究を促進すること、(2) 会員相互および内外の関連機関との交流を図り親睦を深めること、(3) 指導現場と研究者間での情報の流動性を高めることにより、野球に関する知識・情報を収集し普及させ、野球の発展に寄与することを目的とするものである。
5	日本倫理道德教育学会 (https://www.jseme.jp/)	本団体は、道德教育および倫理教育についての理論的実問題の研究を、哲学・倫理学および道德教育学との連携のもとに推進するとともに、会員相互の連絡と親睦を図り、もって我が国の道德教育学および倫理

		教育の学術的発展に貢献することを目的とするものである。
6	日本シティズンシップ教育学会 (https://jaced.jp/)	本団体は、シティズンシップ教育の理論的・実践的研究の充実、発展を図ることを目的とするものである。
7	一般社団法人 日本がん・リンパ浮腫理学療法学会 (https://www.jspt.or.jp/jspto/)	本団体は、がん、リンパ浮腫の理学療法に関する知識の普及、学術文化の向上に関する事業を行い、医療及び社会福祉の充実に寄与することを目的とするものである。
8	一般社団法人 全国大学理学療法学教育学会 (https://jaunpte.site/)	本団体は、4年制大学及び大学院における理学療法学教育の発展に寄与するための教育・研究を推進し、もって本領域の発展と相互の向上を図ることを目的とするものである。
9	九州英語教育学会 (https://kasele-j.org/)	本団体は、英語教育に関する研究および研修活動を行い、わが国における英語教育学および英語教育の発展をはかることを目的とするものである。

令和 7 年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣（案）

	国際会議等	会 期		開催地及び用務地 (※ 1)	派遣候補者 (※ 2) (職名)	備 考 (※ 3)
			計			
1	第 24 回アジア学術会議	11 月 16 日 ～ 11 月 18 日	3 日	パキスタン (イスラマバード)	高山 弘太郎 第二部会員 (豊橋技術科学大学大学院工学研究所教授／愛媛大学大 学院農学研究科教授)	第 1 区分
2					光石 衛 第三部会員 (独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事／東京 大学名誉教授)	
3					春日 文子 連携会員 (長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教 授／Future Earth 国際事務局日本ハブ事務局長)	
4					標葉 隆馬 連携会員 (慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科准教授)	
5					澁澤 栄 連携会員 (京都女子大学高等教育開発センター教授)	
6					白鳥 佐紀子 連携会員 (国立研究開発法人国際農林水産業研究センター情報広 報室プロジェクトリーダー)	
7					松山 亮太 連携会員 (特任) (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動 物衛生研究部門任期付研究員)	

（※ 1）現在アジア学術会議には、バングラデシュ、カンボジア、中国、台湾、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ネパール、
パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、ベトナムの 18 カ国・地域の 31 機関が加盟しており、一年毎に各国・地域が持ち回りで会議を開催。

（※ 2）派遣候補者の会員・連携会員の種別については、26 期現在。

（※ 3）令和 7 年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（令和 7 年 2 月 27 日日本学術会議第 380 回幹事会決定）に基づく区分。

令和7年度代表派遣実施計画の変更等について

以下のとおり、令和7年度代表派遣実施計画(第381回幹事会(令和7年2月27日)にて承認済)の変更等を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	国連気候変動枠組条約第30回締約国会議(COP30)サテライトイベント・科学アカデミー連携による気候変動対策会議	10月20日 ～ 10月22日	マナウス (ブラジル)	北島 薫 第二部会員 (京都大学大学院農学研究科教授)	国際委員会	・派遣実施計画の追加 ・派遣者の決定 ※現地出席予定
2	インターアカデミーパートナーシップ(IAP)総会 2025	12月8日 ～ 12月11日	カイロ (エジプト)	小田中 直樹 第一部会員 (東北大学大学院経済学研究科教授)	国際委員会	・派遣実施計画の変更 ・派遣者の追加及び決定 ※現地出席予定
3	Gサイエンス学術会議 2026	令和8年3月頃	パリ (フランス)	光石 衛 会長、第三部会員 (独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事／東京大学名誉教授)	国際委員会	・代表派遣の取りやめ ※令和8年度の開催が決定したため。

※ 本学術フォーラムは令和 7 年 6 月の第386回幹事会にて承認を受けたが、都合により、開催日を変更するもの。

日本学術会議主催学術フォーラム
「環境化学物質の健康影響：その理解と健康をまもる生活環境の維持に向けて」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議

2. 企 画：健康・生活科学委員会、環境学委員会

3. 日 時：令和 7 (2025) 年12月18日 (木) 13 : 30 ~ 17 : 30

4. 場 所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）

5. 委員会等の開催：開催予定なし

6. 開催趣旨：

化学物質は基本的な生活やその質の向上に不可欠であり、地球上に存在する化学物質の種類は対数的に増加し続けている。これらの化学物質の中で、生活環境中に放出され、特にヒトや生態系に悪影響を及ぼす可能性をもつ物質が環境化学物質と呼ばれている。その種類や量もまた、人間活動に伴って増大している。

我が国のかつての公害をはじめとして、人類は環境化学物質による甚大な健康被害を経験し、その後各国で化学物質の健康への悪影響を防止するための施策や研究が続けられている。近年でも、生活環境中にさまざまな化学物質が検出され、社会的な関心も高い。科学的には低用量で健康に悪影響を及ぼす作用様式があることが新たに明らかにされ、また健康への影響が遅発的に現れる例や世代を越える可能性など、かつては想定されていなかった影響発現様式が報告され、それらの評価方法や施策への反映方法について検討が必要とされている。

このような状況から、現在から将来にわたって健康的な生活環境を維持することを目標として、環境化学物質全体を視野に入れ、最新の研究上の知見をふまえて今後の環境保全について検討することが必要である。特に全容が未解明な環境化学物質の作用様式を明らかにし、同様の作用様式をもつ化学物質をグループ化するなどの方法でヒトに対する影響を把握し、また曝露評価を進め、リスクの大きさを推定する研究を行い、管理につなげることが求められる。この問題に関与する課題は極めて多様であるが、目標を実現するためには総合的・俯瞰的な見地から学術分野横断的な検討が有用であると考え、多分野の関係者が一堂に会して議論を行う場としてフォーラムを企画した。まず、本フォーラムで特に健康影響評価の課題を中心に提起して意見交換を行い、関係

する課題の検討に反映させる予定である。

7. 次 第：

コーディネーター

中村 桂子（日本学術会議連携会員／東京科学大学大学院医歯学総合研究科国際
保健医療事業開発学分野教授）

野原 恵子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人国立環境研究所環境リス
ク・健康領域客員研究員）

演 者

環境化学物質の健康影響リスク評価

青木 康展（日本学術会議連携会員（特任）／国立環境研究名誉研究員）

従来の毒性とシグナル毒性：内分泌かく乱との関係

菅野 純（日本学術会議連携会員／国立医薬品食品衛生研究所客員研究員・名誉
職員）

環境化学物質の多世代・継世代影響

野原 恵子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人国立環境研究所環境リス
ク・健康領域客員研究員）

オルガノイド技術を用いた環境化学物質の影響評価

戸塚ゆ加里（星薬科大学衛生化学研究室教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部、第三部承認

9. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線は、日本学術会議関係者）

公開シンポジウム
「教育改革と可視化ー生成 AI の光と闇」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会
2. 共 催：大阪成蹊大学
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 7（2025）年 10 月 8 日（水）17：00 ～ 18：30
5. 場 所：大阪成蹊大学駅前キャンパスこみちホール（大阪府大阪市東淀川区相川 1 丁目 3－7）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：
本シンポジウムでは、前回の「生成 AI 時代の人間力育成」における成果を継承しつつ、生成 AI の利点（光）と懸念（闇）の両面を可視化という視点から掘り下げる。特に、生成 AI が教育現場にもたらす変革とその功罪を、実践と理論の両側面から検証し、教育改革に資する方向性を議論する場とする。基調講演では、東京大学准教授の馬場雪乃氏が、東大さつき会での先進的な事例 (<https://www.instagram.com/reel/DKy7nRkSe9J/>) を紹介しながら、教育と AI の新たな共生モデルについて提起する。
9. 次 第：
 - ☐ 総合司会
水井 賢文（株式会社富士テクニカルリサーチ営業本部本社営業部本社営業室主幹）
 - ☐ 開会挨拶および趣旨説明（10 分）
小山田 耕二（日本学術会議連携会員／大阪成蹊大学データサイエンス学部学科長／教授）
 - ☐ 基調講演（40 分）
「生成 AI の光と闇：教育改革の可能性と限界」
馬場 雪乃（東京大学大学院総合文化研究科准教授）

□ パネル討論 (30 分)

タイトル: 「生成 AI は教育の敵か味方か: 可視化が導く教育の未来」

パネリスト (予定):

- 小山田 耕二 (日本学術会議連携会員／大阪成蹊大学データサイエンス学部学科長／教授)
- 筑本 知子 (日本学術会議連携会員／大阪大学レーザー科学研究所附属マトリクス共創推進センターセンター長／教授)
- 志村 祐康 (国立研究開発法人産業技術総合研究所エネルギー・環境領域再生可能エネルギー研究センター主任研究員)
- 林 宏樹 (雲雀丘学園中学校・高等学校教員)
- 服部 翔大 (横河デジタル株式会社 DX/IT コンサルティング事業本部マネージャー)
- 水井 賢文 (株式会社富士テクニカルリサーチ営業本部本社営業部本社営業室主幹)
- 巳波 弘佳 (関西学院大学副学長／教授)
- 山辺 真幸 (一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科特任講師)

□ 閉会挨拶 (10 分)

筑本 知子 (日本学術会議連携会員／大阪大学レーザー科学研究所附属マトリクス共創推進センターセンター長／教授)

10. 関係部の承認の有無: 第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無: 無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム

「プラネタリーヘルスの視点で捉える気候変動と災害：コミュニティの役割と挑戦」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会、
フューチャーアースの推進と連携に関する委員会、防災減災学術連携委員会、
一般社団法人日本国際保健医療学会、帝京大学
2. 共 催：なし
3. 後 援：プラネタリーヘルスアライアンス日本ハブ
4. 日 時：令和 7（2025）年 11 月 1 日（土）13：00 ～ 15：00（予定）
5. 場 所：帝京大学板橋キャンパス（東京都板橋区加賀 2-11-1）
（会場開催のみ）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

2024 年は観測史上最も暑い夏として記録された。これら気候変動の影響は、世界各地で異常気象による災害、山火事の頻発、農産物への被害、そして熱中症の増加等、様々な形で私たちの健康へ影響をもたらしている。こうした急激に変化している地球環境のもとで私たちの健康を守るためには、「人と地球の健康は独立ではなく、相互依存によって成立している」というプラネタリーヘルスの視点から、私たちの地域社会（コミュニティ）の在り方を見つめ直す必要がある。

日本学術会議環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会は、「プラスチックのガバナンス」「プラネタリーヘルス研究」「人類と地球の持続可能な共生社会」「環境リスクと正義」をテーマとしてシンポジウムを開催し、様々なリスクとその影響を分析するとともに、課題を解決する社会実践を重視する「プラネタリーヘルス」のアプローチについて検討してきた。

2025 年は、プラネタリーヘルスという概念が世界に提唱された論文「人新世における人間の健康の安全防護策」が、医学誌 The Lancet に発表されてから、10 年という節目の年でもある。本シンポジウムでは、気候変動と災害が私たちの健康に及ぼす影響を見つめ直し、コミュニティがどのように備え・対応し・変革を進めるのか、そしてその実践をどのように地球規模の行動へとつなげていくかを、プラネタリーヘルスの視点から多様な立場で議論する。

9. 次 第：

- 13:00 開会挨拶
冲永 佳史（帝京大学理事長・学長）
- 13:05 日本学術会議挨拶
光石 衛（日本学術会議会長／独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事／東京大学名誉教授）
- 13:10 日本国際保健医療学会挨拶
小林 潤（一般社団法人日本国際保健医療学会理事長）
- 15:15 パネルディスカッション
座長：
橋爪 真弘（日本学術会議連携会員／東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学教授）
鹿嶋 小緒里（日本学術会議連携会員／広島大学 IDEC 国際連携機構プラネタリーヘルスイノベーションサイエンスセンター（PHIS）センター長／広島大学大学院先進理工系科学研究科准教授）
- 13:15 趣旨説明
鹿嶋 小緒里（日本学術会議連携会員／広島大学 IDEC 国際連携機構プラネタリーヘルスイノベーションサイエンスセンター（PHIS）センター長／広島大学大学院先進理工系科学研究科准教授）
- 13:18 講演1「レジリエントなコミュニティのためのサイロの打破：温暖化が進む世界における地球の健康、気候適応、リスクガバナンス（仮）」
ショウ ラジブ（慶応義塾大学政策・メディア研究科教授）
- 13:33 講演2「地域共創によるサニテーションの仕組みづくり：プラネタリーヘルス時代のボトムアップ・アプローチ（仮）」
山内 太郎（日本学術会議連携会員／北海道大学大学院保健科学研究院健康科学分野教授／環境健康科学研究教育センターセンター長）
- 13:48 講演3「プラネタリーヘルスからセルフケアとプライマリヘルスケアを見直す災害看護（仮）」
神原 咲子（日本学術会議連携会員／神戸市看護大学看護学部教授）
- 14:03 講演4「荒川流域防災（仮）」
三井 元子（特定非営利活動法人あらかわ学会副理事長）

14:18 総合討論

指定発言：中村 安秀（公益社団法人日本WHO協会理事長）

ショウ ラジブ（慶応義塾大学政策・メディア研究科 教授）

山内 太郎（日本学術会議連携会員／北海道大学大学院保健科学
学研究院健康科学分野教授／環境健康科学研究教
育センターセンター長）

神原 咲子（日本学術会議連携会員／神戸市看護大学看護学部
教授）

中村 安秀（公益社団法人日本WHO協会理事長）

14:55 まとめ

橋爪 真弘（日本学術会議連携会員／東京大学大学院医学系研
究科国際保健政策学教授）

14:58 閉会挨拶

中村 桂子（日本学術会議連携会員／東京科学大学名誉教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連
絡会議

（下線の講演者等は、主催委員会・分科会委員）

公開シンポジウム
「トランプ関税と国際経済秩序」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会、経済学委員会
2. 共 催：上智大学国際関係研究所、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 A「分断する国際政治における国際協調とガバナンスの政治経済分析」（代表：鈴木基史、令和 5～8 年度）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 7（2025）年 11 月 16 日（日）13：00 ～ 16：00
5. 場 所：上智大学四谷キャンパス B-210（東京都千代田区紀尾井町 7-1）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

今春、米国のトランプ大統領は、米国政府が輸入品に課す関税を大幅に引き上げる、いわゆる「トランプ関税」を公表した。これは対米貿易黒字を計上している国の対米輸出を縮小しつつ、海外の生産拠点を米国に還流して米国の製造業を再生し、労働者の就職機会を拡大することを狙いとしたものである。公表後、トランプ政権は、同措置の発動に猶予期間を設定し、その間、二国間のディールを通じて米国に有利となるように関税率を再設定しようとしている。こうした超大国の交渉戦略は、世界貿易機関（WTO）法や同法を含む現代の国際経済秩序に通底する法の支配や多国間主義に反するもので、世界経済に深刻な打撃を与えることが懸念されている。本シンポジウムでは、世界を震撼させているトランプ関税を取り上げ、関連する分野の専門家を招へいして、それぞれの専門の立場から多角的に議論する。

9. 次 第：

開会 13:00

開会の辞 13:00-13:10

都留 康子（上智大学総合グローバル学部教授）

第1部 講演

川瀬 剛志（上智大学法学部教授） 国際法の観点から
宗像 直子（東京大学公共政策大学院教授） 通商行政の観点から
飯田 敬輔（政策研究大学院大学特別教授） 国際政治経済の観点から
鈴木 一敏（上智大学総合グローバル学部教授） 自由貿易協定の観点から
石川 城太（日本学術会議連携会員／学習院大学国際社会科学部教授）

国際経済の観点から

鈴木 基史（日本学術会議第一部会員／京都大学名誉教授）

国内政治の観点から

第2部 ラウンドテーブルと会場との質疑応答

全登壇者

閉会の辞 15:50-16:00

鈴木 基史（日本学術会議第一部会員／京都大学名誉教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の登壇者は、主催委員会委員）

公開シンポジウム
「土の教育」始めませんか？」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会土壌科学分科会
2. 共 催：日本学術会議農学委員会土壌科学分科会 Soil Health 小委員会、京都大学
大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センターE. FORUM
3. 後 援：一般社団法人日本土壌肥料学会
4. 日 時：令和7（2025）年11月29日（土）10：00 ～ 12：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

皆様は4パーミル・イニシアティブをご存知でしょうか？4パーミル・イニシアティブとは、「世界の土壌の表層の炭素量を年間0.4%（4パーミル）増加させることで、人間の経済活動によって発生する大気中の二酸化炭素を実質ゼロにすることができるという考え方に基づく国際的な取り組み」（農林水産省 HP）です。

また、「植生を中心とし土壌を環境要素の一つとして、それらの相互作用系を考える生態系の概念」に対し、「土壌を中心に置き、植生をも含めた環境要素の間の相互作用が土壌を生成するという現代の土壌観」が提唱されています（久馬一剛「土壌とは何か」同編『最新土壌学』。朝倉書店、1997年、p.8）。

このように、「土壌」には、私たちの世界の見え方を転換させてくれる面白さがあります。しかし、学習指導要領で、「土」が扱われる場面は極めて限られています。

そこで、この度、「土の教育」に関心をもつ先生方と、土壌学の専門家の先生方との間で、「土」をどのように教材化していくことができるのかに関して、共同研究する会を立ち上げることにいたしました。

本公開シンポジウムは、広く一般の方々の参加の下、第1回研究会を兼ねた形式で「土の教育」を議論することにしております。

9. 次 第：

10：00 開会の挨拶と趣旨説明

西岡 加名恵（日本学術会議第一部会員／京都大学大学院教育学研究科教授・教育実践コラボレーション・センター長）

10：10 「土には名前があるのをご存じですか？」

小崎 隆（日本学術会議連携会員／愛知大学国際問題研究所名誉教授）

10：25 「土の健康ってなんだろう？」

波多野 隆介（日本学術会議連携会員／北海道大学名誉教授）

10：35 「小学校で土について学ぶ」

森 圭子（埼玉県立川の博物館学芸グループリーダー）

10：55 「土の健康を維持し回復するために」

矢内 純太（日本学術会議連携会員（特任）／京都府立大学大学院生命環境科学研究科教授）

11：05 総合討論「土の教育への期待について」

11：55 閉会の挨拶

西岡 加名恵（日本学術会議第一部会員／京都大学大学院教育学研究科教授・教育実践コラボレーション・センター長）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

日本学術会議中国・四国地区会議学術講演会
「未来先進地域から限界地総合学を考える」（仮題）
の開催について

1. 主 催：日本学術会議中国・四国地区会議
2. 共 催：国立大学法人鳥取大学
3. 後 援：鳥取県（予定）
4. 日 時：令和7年11月29日（土）13：30～17：10
5. 場 所：鳥取大学鳥取キャンパス工学部講堂（鳥取県鳥取市湖山南4丁目101番地）（予定）
ハイブリッド開催（事前登録制とし、オンラインでも配信（予定））
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：無
8. 開催趣旨：
現在日本のみならず世界の地域は、複合的で複雑な「限界地域」の課題を抱えており、こうした課題の克服には新たな価値の創出と「総合知」が求められている。また、かかる課題と取り組みは様々な地域でともに共有していくことが必要であり、未来の持続可能な地域社会の創出に向けて、どのような学術的行動が必要か、一緒に考えていきたい。
9. 次 第（予 定）：
 - (1) 開会挨拶
13：30 ～ 13：45
磯 博康（日本学術会議副会長・第二部会員、国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長／理事長特任補佐）
※オンライン
原田 省（鳥取大学学長）
 - (2) 趣旨説明
13：45 ～ 13：50
恒川 篤史（日本学術会議連携会員、鳥取大学理事・副学長）

(3) 講演

13:50 ～ 14:20 「果樹類の花粉採取と受粉作業の省力化を可能にするスマート農業技術の開発」

竹村 圭弘（鳥取大学農学部准教授）

14:20 ～ 14:50 「地球規模の限界地問題：食糧危機克服に向けた学術的アプローチ」
辻本 壽（日本学術会議連携会員、鳥取大学学長顧問・特任教授・名誉教授）

14:50 ～ 15:20 「30年後の鳥取県を創る～鳥取県庁若手職員の挑戦～」

奥野 絵美（鳥取県とっとり未来創造タスクフォース係長）

15:20 ～ 15:30 休憩

15:30 ～ 16:00 「自らの人生を主体的に生きるための学びとは ～ “エデュテインメント “の可能性～」

熊埜御堂 朋子（鳥取大学理事）

16:00 ～ 16:30 「生物多様性の維持・向上をビジネスにするという考え」

小林 朋道（公立鳥取環境大学学長）

16:30 ～ 17:00 「人口最少県におけるトップクラスの最先端手術と人材育成」

武中 篤（鳥取大学副学長・医学部附属病院長）

(4) 閉会挨拶

17:00 ～ 17:10

藪田 ひかる（日本学術会議第三部会員、中国・四国地区会議代表幹事、広島大学大学院 先進理工系科学研究科教授）

10. 関係部の承認の有無：科学者委員会

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

公開シンポジウム
「地球再興を見据えた新材料デザイン」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議材料工学委員会新材料デザイン検討分科会
2. 後 援：公益社団法人日本金属学会、公益社団法人日本セラミックス協会、公益社団法人高分子学会、一般社団法人日本鉄鋼協会、一般社団法人軽金属学会、一般社団法人日本 MRS、一般社団法人日本 Additive Manufacturing 学会、一般社団法人粉体粉末冶金協会、一般社団法人スマートプロセス学会、日本バイオマテリアル学会（以上、すべて予定）
3. 日 時：令和 7（2025）年 12 月 23 日（火）13：00 ～ 17：00
4. 場 所：日本学術会議講堂（予定）（東京都港区六本木 7-22-34）
（ハイブリッド開催）
5. 一般参加：可
一般参加者の参加費の有無：無
6. 分科会等の開催：開催予定あり
7. 開催趣旨：
 明るい近未来社会の実現には、地球再興を見据えた環境負荷低減と経済成長の両立が必須である。その具現化に向けたイノベーション創出には新材料の創製が不可欠であり、組成探索による化学結合をも超えた、金属、セラミックス（無機材料）、ポリマー（有機・高分子材料）などの新材料創製と新プロセスの創製と活用による新材料デザインが必須である。加えて、計算科学の利用や高品質なデータ蓄積による効率的な新材料の創出が重要となる。本分科会では、学会や分野を超えたサイバー・フィジカル空間の高度な融合に基づくことで初めて実現できる新材料デザインに注目し、広汎に分野融合すべき新たな材料科学・工学のあり方について検討を進めている。本シンポジウムでは新材料デザインのイノベーション、未来社会における材料工学の新しいプレゼンスを中心に、今後の学術研究戦略を展望する。
8. 次 第：
13:00-13:30
1) 開会挨拶・趣旨説明（地球再興と新材料デザイン）

中野 貴由（日本学術会議第三部会員／大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻教授）

13:30-15:00

2) 地球再興を見据えた新材料・新プロセスへの挑戦

司会：松本 卓也（日本学術会議連携会員／岡山大学学術研究院医歯薬学域教授）

(1) 「計算科学活用による新材料デザイン（仮）」

小山 敏幸（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人物質・材料研究機構構造材料研究センター計算組織設計グループ NIMS 招聘研究員）

(2) 「地球再興を見据えた新材料開発への挑戦（仮）」

高村 仁（日本学術会議連携会員／東北大学大学院工学研究科教授）

(3) 「地球再興を見据えた新プロセス開発への挑戦（仮）」

尾崎 由紀子（日本学術会議第三部会員／九州大学大学院工学研究院非常勤講師／大阪大学接合科学研究所招聘教授）

15:00-15:20 休憩

15:20-16:50

3) 地球再興を見据えた材料工学の未来戦略

司会：三浦 誠司（日本学術会議連携会員／北海道大学大学院工学研究院材料科学部門教授）

(1) 「鉄鋼業界からみた新材料工学への期待（仮）」

河野 佳織（日本学術会議連携会員／日本製鉄株式会社フェロー）

(2) 「データ駆動型研究によるマテリアルイノベーション（仮）」

榎 学（日本学術会議連携会員／東京大学大学院工学系研究科教授）

(3) 「新しいものづくりを考える（仮）」

梅津 理恵（日本学術会議連携会員／東北大学金属材料研究所教授）

16:50-17:00

4) 閉会挨拶

岸本 康夫（日本学術会議第三部会員／JFE スチール株式会社スチール研究所研究技監）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

○国際会議の後援（1件）

以下について、後援の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」第22回年次総会

主催：特定非営利活動法人 STS フォーラム

期間：令和7年10月5日（日）～10月7日（火）

場所：国立京都国際会館

参加予定国数：82 か国・地域

申請者：特定非営利活動法人 STSフォーラム 理事長 小宮山 宏

審議結果：国際委員会、同国際会議主催等検討分科会承認

○国内会議の後援（3件）

以下について、後援の申請があり、関係する部及び委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第49回人間－生活環境系シンポジウム

主催：人間－生活環境系学会

期間：令和7年11月22日（土）～11月23日（日）

場所：奈良女子大学

参加予定者数：約100名

申請者：人間－生活環境系学会 会長 光田 恵

審議付託先：第二部、第三部

審議付託結果：第二部、第三部承認

2. 第84回日本公衆衛生学会総会シンポジウム「今後のNCDs対策を考える」

主催：一般社団法人日本公衆衛生学会

期間：令和7年10月30日（木）

場所：グランシップ（静岡コンベンションアーツセンター）

参加予定者数：約100名（現地＋オンデマンド配信）

申請者：第84回日本公衆衛生学会総会 学会長 尾島 俊之

審議付託先：第二部

審議付託結果：第二部承認

3. 第23回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

主催：一般社団法人男女共同参画学協会連絡会

期間：令和7年10月11日（土）

場所：日本大学生物資源学部湘南キャンパス及びオンライン

参加予定者数：約220名（現地90名、オンライン130名）

申請者：一般社団法人男女共同参画学協会連絡会 第23期委員長 佐藤 宣子

審議付託先：科学者委員会

審議付託結果：科学者委員会承認

○今後の予定

●幹事会

第389回幹事会	令和7年9月26日（金）	14：30から
第390回幹事会	第195回総会期間中に開催	
第391回幹事会	令和7年11月27日（木）	14：30から
第392回幹事会	令和7年12月23日（火）	14：30から
第393回幹事会	令和8年1月27日（火）	14：30から
第394回幹事会	令和8年2月27日（金）	14：30から
第395回幹事会	令和8年3月23日（月）	10：00から

●総会

第195回総会	令和7年10月27日（月）～29日（水）
---------	----------------------